

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 12月11日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3670101447
法人名	医療法人 清和会
事業所名	グループホーム かがやき
所在地	徳島県徳島市上八万町中山83番地の1 (電 話) 088-668-1060
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 11月 25日

## 【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成16年 2月 19日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	20 人 常勤17人,非常勤 3人,常勤換算 ユニット1 6.5人 ユニット2 5人 ユニット3 6.5人

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り 4 階建ての 1 階 ~ 3 階部分
------	-----------------------------

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷 金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	380 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,380 円	

### (4)利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	13 名	女性	14 名
要介護1	6 名	要介護2	8 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	7 名		
年齢	平均 77.8 歳	最低	56 歳	最高	96 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	協立病院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、静かで自然豊かな環境にあり、利用者は季節の移り変わりを体感しながら、自由に散歩をしたり、庭で休息したりしている。運営者は常にホームに来られ職員の意見をよく聞き、熱意を持ってホームの運営に取り組んでいる。また、職員もいつでも意見が出せる関係にあり、サービスの質の向上に活かされている。また運営推進会議における討議や検討の結果を、事業所の運営や日々のケアの中に反映させている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価で改善が期待された項目について、運営者及び職員全体で話し合いが持たれ、また運営推進会議でも検討がなされている。権利・義務の記載については、適切な改善がなされている。職員の研修への参加や事故・ヒヤリハットの再発防止については、改善へ向けて検討が進められている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を日々のケアの見直し、サービス向上の機会ととらえ、職員全体で話し合っ取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には、市職員、地域代表者、利用者、利用者家族等が参加し2ヶ月に1回開催されている。会議では、事業所の運営状況、利用者の暮らしぶりを伝え、意見交換が行われている。評価結果についても、報告がなされている。災害対策に関して意見が出され、市消防局との連携を深める取り組みが進んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からは、機会あるごとに意見や要望を聞くことに努め、出された内容は検討し日々のケアに反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ボランティアの訪問などはあるものの、周辺民家から距離的にかなり離れているという条件もあり、現状では、事業所と地域の双方向の交流はあまり図られていない。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は利用者がその人らしく地域で暮らせるためのケアに視点を当てたものとなっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、折に触れ理念について話し合い、日々のケアにおいて実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は周辺民家から距離的にかなり離れているという条件もあり、現状では、事業所と地域の双方向の交流が図られているとは言えない。	○	積極的に地域情報を収集し、事業所が地域の一員として活動していかれることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員全体で話し合い、日々のケアの見直しの機会にしている。外部評価の結果についても全職員に周知し、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、市職員、地域代表者、利用者、利用者家族等が参加し2ヶ月に1回開催されている。会議では、事業の運営状況や利用者の暮らしぶりなどについて報告され、意見交換が行われている。外部評価の結果についても話し合いが持たれている。会議録は記載されているが、全職員に回覧された記録がない。	○	職員にも会議の内容を周知し、会議録に確認のサインを残していかれることが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者は運営推進会議のメンバーになっているが、現状では会議への出席も少なく、市町村との連携は充分に取れていない。	○	市町村担当者に事業所の取り組みへの理解を求めると共に、地域包括支援センターへも働きかけ、事業所への協力依頼を検討して連携に取り組んでいかれたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族に対しては、毎月利用者の暮らしぶりや健康状態を手紙や写真で伝え、家族の来訪時や電話があったときにも話し合いを持っている。	○	金銭管理において、通帳の写しに用途の説明をつけて家族に送付しているが、できれば金銭出納簿に家族や保護者の確認印が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や家族会、運営推進会議など機会があるたびに家族の意見や希望をうかがうことに努め、ケアサービスに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職等によるやむを得ない職員の異動には、利用者には不安や不満を与えないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員間で勉強会をしたり、法人内外の研修に参加しているが、年間研修計画や研修後の報告書の作成がなく、全職員が段階的に研修の機会を持ち、またその研修内容を共有するまでには至っていない。	○	全職員が段階的に参加できる年間研修計画を作成し、また研修に参加した場合には、全職員への報告書の閲覧や研修資料に基づいた勉強会などを実施されるよう取り組んでいかれたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、同業者と情報交換の機会を持ち、また職員はグループホーム協会の勉強会に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に本人、家族に事業所を見学してもらい、相談しながら、充分納得した上で利用へと繋いでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者が共に家族のように言葉を交わす場面が多く見られ、職員は利用者の喜びや楽しみ、持てる力を引き出すことを支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者が今日一日をどう過ごしたいかを把握し、希望に添って支援している。声かけを何度も行って、本人の意向や希望を聞きだしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いや意見を聞き、職員の日頃の関わりの中で気付いたことを出し合って、計画書の中に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回定期的な見直しを行い、本人の状態の変化や要望、家族の希望があるときには、その都度見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、通院の介助や重度化した場合の対応など、柔軟な支援が行われている。医療連携体制により、母体病院の看護師の巡回訪問が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、事業所の協力医療機関や従前からのかかりつけ医の受診がスムーズにできるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応や終末期のあり方については、本人や家族、医師を含め全員で話し合い方針を共有している。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	守秘義務については契約書の中に明記され、職員は採用時に同意書にサインをし義務を遵守している。利用者を傷つけるような態度や発言はされていない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の場面場面において、職員は、本人の気持ちに耳を傾け、一人ひとりのペースを大切に、ゆったりとした暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が中心になって調理を行っているが、利用者と言葉を交わしながら出番や役割を作っている。利用者と職員と一緒に食事をし、会話のある和やかな食卓となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時は、本人のできるレベルに合わせた個別の支援を行い、本人がくつろげるよう配慮している。入浴を拒む人に対しては、工夫をして声かけをしたりシャワー浴や清拭などで対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりのできることを見極め、毎日の暮らしの中で役割を担ってもらい、利用者の自信に繋げている。また手芸や折り紙、習字など、それぞれにあった楽しみごとを実施している。利用者全員で取り組んでいる共同制作作品は、リハビリ効果と合わせて利用者のやりがいのある楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所周辺の美しい自然の中を散歩したり、木陰で体操をしたり、季節の変化を体感できる暮らしがある。買い物やドライブにもよく出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム全体の玄関と2階ユニット入口は常にあいているが、1階と3階のユニット入口は、外に出られる方や介護度の重い方がいるため施錠されている。しかし、事業所全体には閉塞感は無く、利用者は自由に庭に出たり、屋外で休息したりしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に避難訓練を実施している。運営推進会議において災害対策についての討議がなされ、市消防局との連携が図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事や水分の摂取量を記録し、職員が状況を把握している。献立は法人の管理栄養士によるチェックがされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、明るく清潔に保たれ、利用者の共同制作の作品や一人ひとりの手作りの作品が飾られている。窓からは、季節感たっぷりの自然の木々が眺められ、適度な光が射し込んでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の慣れ親しんだ家具や日用品が持ち込まれ、本人の好みにより配置されている。仏壇なども持ち込まれている。		